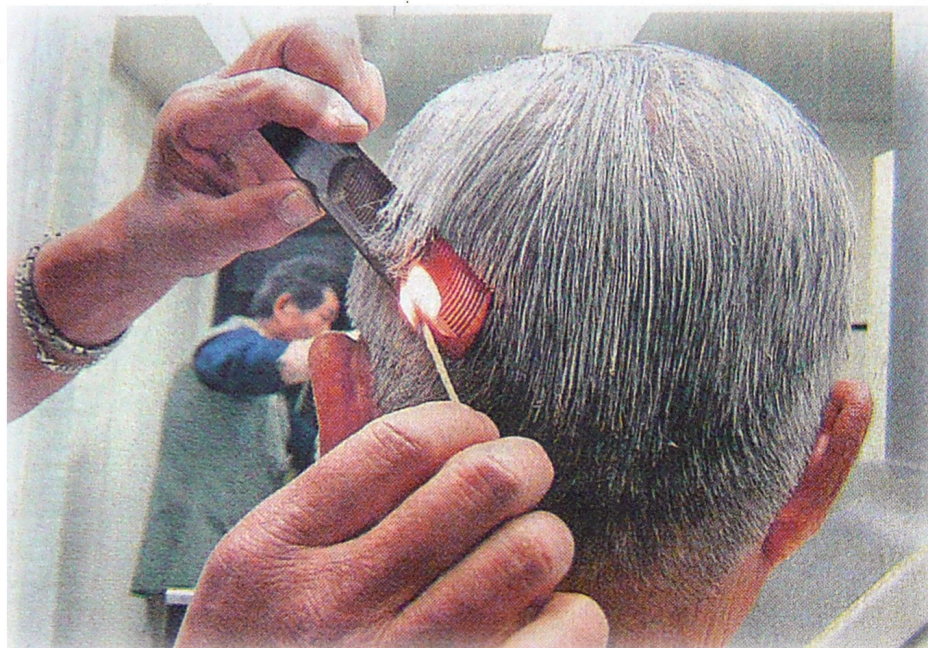


毛先だけを燃やすシンジ
ング＝神戸市東灘区魚崎
南町4

火で毛先を調髪「シンジング」



中央理美容専 いた。だが、1970年ご
の堀純校長(68)によると、
シンジングは大正の終わり
から昭和初めにかけて米
国から伝わり、ホテルなど
に入る高級店で行われて

医学的な裏付けはない

理髪店経営 緒方房義さん

復活へ“燃える”意欲

神戸市東灘区魚崎南町4で理髪店「ヘアーサロ
ンおがた」を営む緒方房義さん(63)が、火で毛先
を燃やす理容技術「シンジング」を採り入れ、話

題を呼んでいる。40年ほど前に衰退したとい
い、復活に意欲を燃やす。

(有島弘記)

が、不必要な毛髪を燃やす
ことで順調な発育を促すこ
もいわれる。

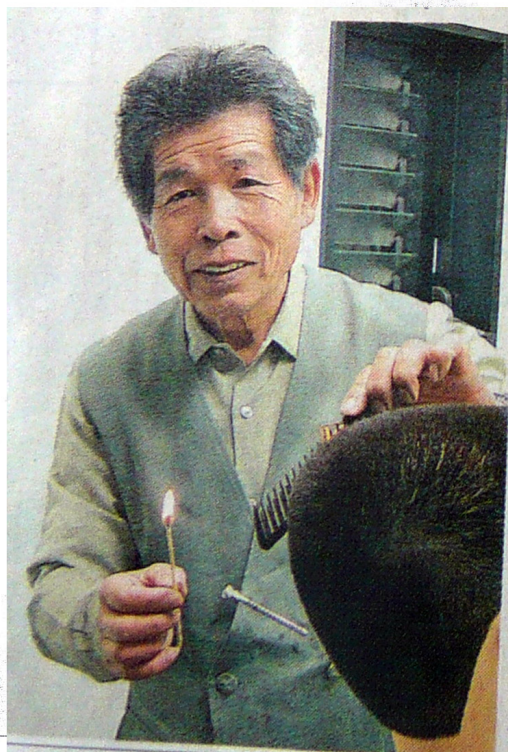
緒方さんは、伝統の技術
を受け継ぎたいと考え、火
を付ける道具を手作りし
た。今年1月、福岡でシン
ジングを続ける理容師の助
言で「木綿糸」を試したと
ころ、火は適度な大きさで
燃え、糸も燃え尽きてやけ
どの心配もなく、実用のめ
どが立った。

ライターで糸に火をつ
け、左手のくしで毛先だけ
をすくい取り、炎を近づけ、
素早く左右に動かす。体験

道具手作り「奥深さ、若い世代に」

した同市東灘区魚崎南町3
の柴田明和さん(82)は「全
然熱くない。寝てしまっく
らしいの気持ち良さ」と満足
そうだった。

緒方さんは2006年、
カミソリで髪の毛を削るレ
ーザーカットが評価され、
「神戸マイスター」に認定
された。マイスターの目的
は技術の継承で、「シンジ
ングは手間の掛かる技術だ
が、誰かがやらなければ廃
れる」と緒方さん。「理容
の奥深さを伝えられるよ
う、若い理容師にも広げたい」と語る。



緒方房義さん